

別紙

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称 プレス工業株式会社 尾道工場
- (2) 事業所の所在地 尾道市高須町大山田1050番地
- (3) 業種 自動車部分品・附属品製造業 (3113)

2 計画の期間

本計画の期間は、平成20年度を基準年度とし、平成23年度から平成27年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂），削減率（％）

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))					
	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
エネルギー 起源CO ₂								
非エネルギー 起源CO ₂								
メタン								
一酸化二窒素								
フロン類								
温室効果ガス 実排出量総計								
温室効果ガス みなし排出量								
実績に対する 自己評価								

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 付加価値（単位：百万円）

温室効果ガスの種類	基準年度の 実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成20年度	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
エネルギー 起源CO ₂	1.409	1.339 -5.0	1.241 -11.9	1.524 +8.2	1.622 +15.1		
非エネルギー 起源CO ₂	0	0					
メタン	0	0					
一酸化二窒素	0	0					
フロン類	0	0					
温室効果ガス 総排出量	9,400	8,930 -5.0	11,243 +19.6	10,230 +8.8	10,598 +12.7		
エネルギー消費 原単位（原油換 算kl）	0.6101 (4200kl)	0.5800 (3990kl)	0.4604 (4169kl)	0.5650 (3792kl)	0.5964 (3896kl)		
実績に対する 自己評価		一部の車種にて塗装不具合が発生し、乾燥炉と塗装ブースといったエネルギー消費量の高い設備の運転時間が伸びたが、現状把握から対策までに時間を要した。					

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減		・乾燥炉扉開放時間短縮。 ・乾燥炉昇温方法の変更。 ・乾燥炉温度の見直し。
2	電気使用量の削減	電気使用量の1.6%削減。	・省エネ照明器具へ更新。 ・各ポンプ・ファンの運転方法の制御を含めた変更。 ・C P 冷却水運転自動化。
3	電気使用量の削減	電気使用量の1.1%削減。	・水銀灯を省エネタイプ照明へ更新。 ・旧型自動販売機の更新。
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量を原単位あたり5%削減。	・原材料の節約（設計・加工） ・消耗品の寿命延命化 ・廃油排出量の削減。（リサイクル化） ・紙の節約（両面使用）
	環境負荷物質低減	環境負荷物質を原単位あたり5%削減。	・塗料ホース長さ変更により、洗浄シンナー使用量削減。
	排水有害物質	排水有害物質含有量規制値遵守	・COD負荷量規制値遵守 ・全窒素負荷量規制値遵守 ・全りん負荷量規制値遵守

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。